

# 弓道場における心得と危険防止「10箇条」

## 練習における心得

- 道場においては、指導者または責任者の指示に従うこと。
- 道場への入退場には「礼」を行い、場内では他の人の迷惑になる言動を慎むこと。
- 弓具は練習前に点検確認を(終了後は整備を)行うこと。  
弓・矢の破損/弦の納まり/握り革/把の高さ/中仕掛/矢の長さ/筈割れなど

## 巻藁練習時の注意

- 準備運動を兼ね素引き(弓の破損防止)を行うこと。
- 巻藁に向かい約2m(弓一丈)の距離を取り、手順に従って行うこと。
- 矢を抜く時は左手を巻藁に当て、右手は矢の根元を持ち、後方に注意しつつ慎重に抜くこと。

## 的前練習時の注意

- 練習開始後は、許可なく矢道・安土に立ち入らぬこと。
- 行射の時、矢道・安土に人がいる時は矢番え・取懸けをしないこと。
- 矢取りは、射手側と相互に合図確認し、必ず自らの目で安全確認を行うこと。

## 総括

- 事故は正規の練習よりも、自由練習の際に起きる場合が多い。  
「弓矢は武器としての危険性を有する」ことを、肝に命じて行動すること。